

平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

学校名	岡山操山中学校・高等学校
事業名	SOZANグローバル人材育成プロジェクト
事業の必要性・テーマ	<p>(1) 事業の必要性 グローバル化が急速に進展している現代社会において、世界を舞台に活躍するグローバル・リーダーの育成が急務となっている。そのためには、中学校・高等学校の発達段階に応じて体系的に、国際化を進める大学や企業・国際機関等と連携を図り、深い教養や、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的素養を身に付けさせる必要がある。本校では学校独自の「SOZANグローバル人材育成プロジェクト」により、グローバル人材の育成に取り組んでいるが、この事業をより深化・発展させて、留学や海外大学へ進学する人材や将来、国際機関・グローバルビジネス界で活躍する人材を育成したい。</p> <p>(2) テーマ 日本と世界に関する豊かな教養を身に付け、様々な課題をグローバルな視点で評価・判断し、課題解決に向けて行動する人材を育成する。 生徒がグローバル社会に関わる課題を理解し、その課題解決の方法を研究するとともに、その成果を課題研究発表会や外部主催の研究大会などで発表できるようにする。さらに、成果を海外へも発信したり、課題解決や国際貢献の方法などを主体的に考案し、提案することができるようにする。 また、特に志の高い生徒については、リーダーシップ・コミュニケーション力、特に高い英語力、ICT活用能力や討議・発表の能力などを身に付けて、留学や海外大学進学を目指して意欲的に取り組むことができるようにする。</p>
事業の概要・進め方	<p>I 「NEW未来航路」(グローバルな視点を導入した「総合的な学習の時間」)</p> <p>(1) 身近な世界から国際的な世界へと展開する課題研究 ①中学校 1年：世界の中の岡山、2年：世界の中の日本、3年：岡山・日本から世界へ ②高等学校 1年：研究方法・グローバル社会の理解、2年：グローバル課題の探究活動 これらの課題研究を進めるために、活動は大学・企業等と連携して実施する。</p> <p>(2) 論理的思考力育成プログラムの導入 課題解決能力・思考力育成のための「論理的思考力育成プログラム」の開発を行う。また、そのための先進実践校の視察も実施する。</p> <p>(3) リベラルアーツ講演会の開催 日本人としてのアイデンティティーの基礎づくりと、国際的教養を深めることを目的とした講演会を開催する。</p> <p>(4) 研究成果の普及 課題研究発表会の開催や課題研究報告書発行により、この事業の成果を普及する。</p> <p>II 「SOZAN国際塾」(NEW未来航路からの発展的活動、中1～高3)</p> <p>(1) 課題研究 ①中学校：未来航路の時間と連携して、グローバルな課題について探究活動・学習を行う。 ②高等学校：大学・企業・国際貢献機関と双方向の連携を行い、NEW未来航路での課題研究を深化させる。</p> <p>(2) グローバルスキルトレーニング ① ディベート大会、弁論大会、スピーチコンテスト等への出場を目標として、グローバルコミュニケーションに必要な基礎スキルを磨く。 ② 岡山大学「国際センター」等と連携し、大学生・留学生と協同したフィールドワーク等で実践力を育成する。 ③ 「TOEFL」または「TOEFL Junior」を受験させ、専門的な英語力の伸長を目指す。 ④ 希望者に「SAT(米国大学進学適性試験)」等を受験させるための教育基盤整備を行う。</p> <p>(3) 海外との交流、海外研修の企画・調整 ① タブレットを活用したWEB上の交流で海外の中高校生と意見交換しながら研究する。 ② 海外研修で連携する相手校と姉妹校縁組みについて、企画・現地調査を行う。</p> <p>III 教科研究</p> <p>(1) グローバル人材に必要な資質を各教科で定め、それを基にした年間到達目標を設定する。外部のアドバイザースタッフを依頼し、全教科でグローバル人材育成のための基礎研究を推進し、授業改善を行う。 (2) 教科研究会を開催し、公開授業と研究協議を行い、研修を行う。 (3) 中3、高校生対象に「GTEC for STUDENTS」を実施し、英語力の向上を継続的に検証する。</p>

平成26年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

	事業の進め方 中学校・高校にグローバル人材育成推進室(仮称)を組織し、それを中高一貫推進室が統括する形で事業を推進していく。		
達成目標	1 グローバル化した国際社会で活躍したいと希望する生徒の割合を80%以上(現在64.3%) 2 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数の目標値 中学15人 高校15人 3 ディベート大会、弁論大会、スピーチコンテスト等へ積極的に参加する生徒の増加 4 総合的な英語力としてGTEC for STUDENTSの平均スコア 中3:490、高1:490、高2:530、高3:560以上 5 海外の大学進学を希望する生徒の輩出 6 タブレットを効果的に活用した指導方法の提案		
実績と成果 (目標の達成状況を含む。)	○事業Ⅰ：NEW未来航路 中学校、高校ともそれぞれの学年のテーマに沿って課題研究を実施することができた。高校2年生では、研究テーマにおいてグローバルな課題を取り上げた生徒が昨年度からは増加した。生徒の感想からは、向上させたい能力のうちコミュニケーション能力や発表(伝える)能力の重要性について理解できている様子がみてとれた。また、プレゼンテーション能力は学年が上がるにしたがって向上している。 研究のプロセスにおいて、大学や企業等に助言をおおぐことができたのは、研究の質を高める上でも、生徒の研究手法習得のためにも有益であった。 論理的思考力育成プログラムについては、高校1年で導入することができた。ベネッセコーポレーションと連携し育成する力の評価手法についても研究し、今後の取組にいかしていく予定である。 リベラルアーツ講演会についても予定どおり実施し、課題研究に取り組むために必要とされる教養としての国際理解に大いに役立った。 研究成果の普及については、ホームページにより情報発信を行うとともに、課題研究発表会を公開したり課題研究報告書を発行する予定である。	事業 達成率	95%
	○事業Ⅱ：SOZAN国際塾 今年度、初めて意欲のある生徒を対象に「SOZAN国際塾」を組織したところ45名の入塾があった。セイクリッドハート高校からの訪問受け入れの企画運営や岡山大学へ来ている留学生との交流等を積極的に行った。グローバル課題を研究テーマにするための基礎的知識を学ぶため、海外勤務経験を持つ外部講師による講演会を、年間3回実施した。このことにより、海外へのより具体的な関心を高めることができた。 グローバルコミュニケーションに必要な基礎スキルを磨くために、岡山県高等学校英語スピーチコンテストに参加を募ったところ、出場制限数を超える応募があった。出場者2名は、いずれもレベルの高いスピーチを行うことができ、中国大会、全国大会へ出場することができた。 今年度、初めて中学校と高校でそれぞれオーストラリアへの海外研修を企画した。ホームステイ受け入れや平成27年3月実施のオーストラリア研修への参加など、設定した交流機会を積極的に活用しようとする生徒が多数あった。	事業 達成率	95%
	○事業Ⅲ：教科研究 全教科で実施した「グローバル人材育成のための基礎研究」に関する教育研究大会では、校外から145人の参加者があり、意見や助言を研究に活かすことができた。 今年度の新たな取り組みである「教科別到達度目標表」の作成により、本校が定めているグローバル人材に必要な5つの資質を授業の中でどのように育成するかについて中学・高校の全教職員で共有できるようになった。 「グローバル・コミュニケーション通信」をほぼ毎月発行(13回)することにより、教科研究の取組に関する最新情報を全員で共有できるようになった。 GTEC(3年)の平均は556.2点で、2年生次には530.5点であったので1年間で25.7点アップしている。	事業 達成率	95%

平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

	<p>本事業に取り組むことで、日本から世界へと生徒の視野を広げられる機会を多く設定することができ、さらなる飛躍へ向けて重要な基礎を築くことができた。特に、今年度新たに企画した海外研修への参加に生徒が高い関心を寄せていることがわかったことは、今後のプログラム開発にとって参考になる結果となった。</p> <p>新たに「SOZAN国際塾」を立ち上げたことで、生徒へ「グローバル課題」に対する意識付けができ、課題研究の重要性を再認識させることができた。</p> <p>「教科研究」の実践は、これまで継続して行ってきた研究をさらに発展・深化させる取組となったことで、教員の授業力向上に資することができた。</p>	総合 達成率	95%
今後の課題	<p>○「グローバル人材の資質とは何か」について理解している生徒の割合は50%であった。将来的に国際的な視野に立った活動や仕事をしたいと思う生徒が全体の51%であった。本校が育成するグローバル人材に必要な資質を生徒と教員で共通理解を図り取組を推進する必要がある。</p> <p>○「SOZAN国際塾」と「未来航路」における課題研究の在り方について、関連を整理し実施する必要がある。</p> <p>○タブレットの活用については、端末の活動場所への導入及び、活用方法についても検討ができ実施準備は整ったものの、実施の段階になってネットワーク上の問題が見つかり、ネットワーク環境の整備を行っている。今後整備を行い、海外生徒等との情報交換や情報収集や情報発信に活用していきたい。</p>		
学校自己評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	評価の理由、次年度以降の継続性等	<p>自ら課題をみつけ、その課題に対して他者と協働して解決策を見いだすことができる人材が求められており、新たに「SOZAN国際塾」を組織し、これと「未来航路」の取組により、課題研究の深化・発展の方向性を探ることができたことは成果である。</p> <p>全教科で「教科別到達目標表」を作成したことにより、本校独自のグローバル人材育成のための評価の規準(または基準)ができたことは、来年度へ向けての大きな前進であり成果と言える。</p> <p>これらの研究は、グローバル人材をいかに育成し評価するかを明確にするために、今後も継続していく必要があり、今年度の取組を積極的に次年度に活用していきたい。</p>	
主管課評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	見直しの余地改善提案等	<p>グローバル人材育成に向けた5つの資質能力を定め、具体的なプログラムを作った上で、教科別の年間到達目標・具体的取組が可視化されており、中・高の教員で共有化されている点が大きな特徴である。特に、教科別の年間到達目標を定め、授業改善に取り組んでいることは、モデルとして他校にとって大いに参考にできる。</p> <p>中・高の教員が同じ思いを共有化しながら、中学校で身に付けた力を高校でさらに伸ばすことで、大きなブランド力になると思う。今後も、中・高それぞれの取組を共有化しながら、さらに拡大していただきたい。</p> <p>また、今後は、『何を教えるか』ではなく、『どんな力を持った生徒を育成するか』ということが重要となってくるが、この点に着目して授業に取り組む岡山県におけるトップランナーになっていただきたい。</p> <p>さらに、アクティブラーニングをしっかりと各取組・授業で行い、生徒自身が主体的に学ぶことで得られる生徒一人一人の目の輝きを大事にしなが、取り組んでいただきたい。</p>	

平成26年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

	5段階評価	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
委員評価	指摘・指導・助言	<p>概ね当初の計画どおりに事業を実施し、グローバル人材の育成という大きな目標が生徒にも浸透し、生徒も様々な視点から物事を捉え、考えることができるようになってきていることが感じられる。</p> <p>特に、本プロジェクトの取組の過程において、グローバル人材育成にとって必要な資質能力として5つの具体像を析出し、それらの力を各教科でどのように育てるかという観点から、目標・指標を設定し、これに従って取組が進められた。このことは、指導目標が教科内容から設定されるという従来の日本の教育課程編成の発想と異なり、まず「生徒たちにどのような能力を付けさせたいか」ということから、習得させるべき能力を各教科の目標設定に落とし込んでいるという点において、画期的なことだと思われる。これは、「21世紀型能力」の核心になる部分であり、今後の教育で求められてくる可能性が非常に高い。</p> <p>このような教育目標の定め方と教育目標を実質的に達成しようとする学校全体の取組のあり方を実現されたことは、他の学校の学校経営のモデルになるものとして、当初の見込みを大きく上回る成果として評価したい。</p> <p>今後、こうした取組をさらに外部に発信していただき、岡山操山の教育で得られるグローバル人材像をアピールし、是非、生徒や保護者の関心を高め、さらに素晴らしい実践を展開していただきたい。</p> <p>なお、当初の計画に盛り込まれていたタブレットの活用については、十分な見通しを持ち、適切な方針を立てて取り組んでいただきたい。</p>

- ※評価の基準
- 5 見込みを大幅に上回る
 - 4 見込みを上回る
 - 3 見込みどおり
 - 2 見込みを下回る
 - 1 見込みを大幅に下回る